



稲沢市社会福祉協議会の企画「マスクプロジェクト」(R2/5/18~7/31)に参加協力し、本校から549枚のマスク(未使用)が寄贈されました。

寄贈の様子を中日新聞(8月1日(土)尾張版)に掲載されました。

渡辺会長(後列左から2人目)にマスクを手  
渡す部員たち(稲沢市祖父江町の杏和高で)



杏和高生「できることを」

JRC マスク549枚 稲沢市社協に寄贈

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、ボランティア活動などに取り組み稲沢市祖父江町の杏和高校JRC(青少年赤十字)部が七月三十日、マスク五百四十九枚を市社会福祉協議会に贈った。

社協が五月中旬から実施する寄付プロジェクトの一環。部員たちは「高校生でもできることをしたい」と六月中旬から校内に回収ボックスを置き、ポスターを制作して生徒や教職員に協力を呼び掛けた。一部は部員たちが手作りし、集まったマスクは一枚ずつ包装した。

同校で三十日、部員たち

が社協の渡辺菱会長(七七)に手渡した。いずれも副部長の二年加藤菜々葉さん(二七)と尾崎日菜さん(二七)は「マスク作りは大変だったけど、施設に届くことを思うとうれしい。普通に過ごせる日が戻ってきてほしい」と願った。渡辺会長は「福祉施設は感染予防対策に苦勞している。今後も地域福祉の推進に努めていきたい」と感謝した。

プロジェクトは七月末で終了し、計約一万三千枚のマスクが集まった。社協はこれまでに市内四十四カ所の福祉施設へ贈ったほか、今後三十七施設に届ける。

(牧野良実)

